

- 1 **TOP MESSAGE 1** 大学評価室に期待する
- 2
- 3 **TOPIC 1** 2009年度新入生アンケート結果
- 4
- 5 **TOP MESSAGE 2** 評価を受けて
- 6 **TOPIC 2** 活動報告



財団法人大学基準協会  
大学評価・研究部部長 工藤 潤

### TOP MESSAGE

## 1

## 大学評価室に期待する

大学基準協会は、平成23年度の第2期認証評価から、新たな評価システムを適用する予定です。

新システムの特徴は、大学自らが教育研究活動等の質を保証するメカニズムを構築しその有効性を証明すること(内部質保証システム)を求める点にあります。例えば、評価項目の一つである「教育内容・方法・成果」では、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の明確化、これら方針に基づくカリキュラム編成と教育方法の確立、教育システム及び学習成果の検証とフィードバックというように、大学は一連のPDCAサイクルの有効性を自己点検・評価を通じて証明しなければなりません。こうした自己点検・評価が客観的かつ公正に行わ

れるためには、恒常的にデータ・情報を収集する等の専門部局が不可欠です。

わが国では、こうした専門部局を設置している大学は必ずしも多くはありませんが、法政大学はいち早くその重要性に着目して大学評価室を立ち上げました。また大学基準協会も、新システムでの評価の視点の一つに、「内部質保証を掌る組織の整備」を入れたところでは

大学の質を保証する第一義的責任は大学にあります。大学評価室が法政大学の質の保証に主導的役割を果たすと同時に、質の向上に貢献していくことを大いに期待しております。

(編注:工藤氏は本学OBです)



TOPIC  
1

## 2009年度新入生アンケート結果

大学評価室では学部・大学院の新入生を対象としたアンケート調査を実施しました。その結果の中からいくつかを選んで概要を報告します

### ■ 調査の概要

・調査主体 総長室付大学評価室

・調査対象 2009年度新入生(学部通学課程・大学院)、  
休学者・退学者を除く

・調査時期 2009年6月18日～8月上旬

・調査方法 調査票を用いた無記名式による調査(調査票は、学生本人住所宛に郵送し、返信用封筒(切手不要)にて回答いただきました)

・回答数 学部 1,394名(回収率21.2%)

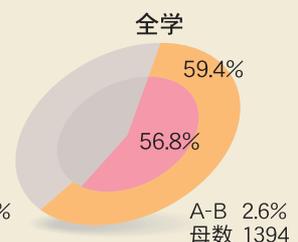
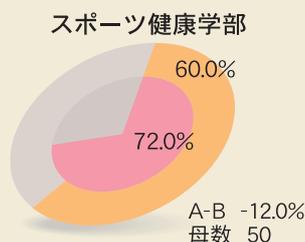
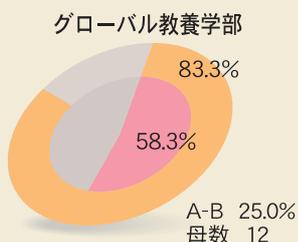
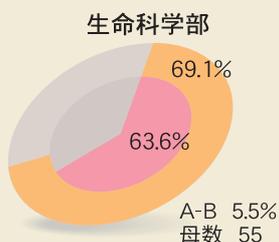
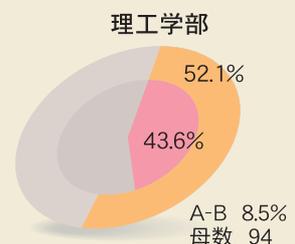
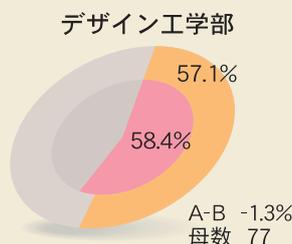
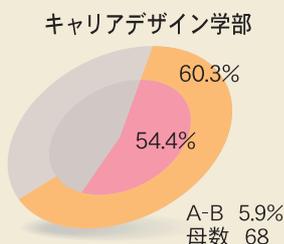
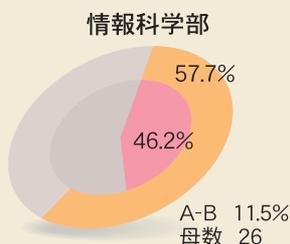
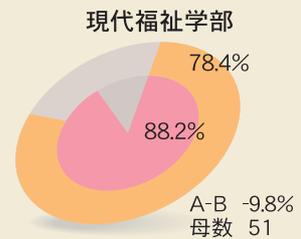
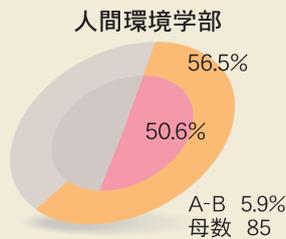
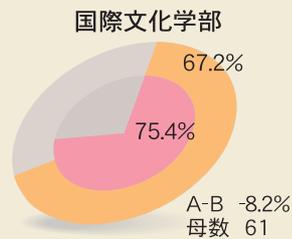
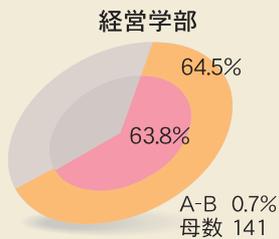
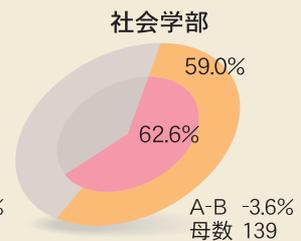
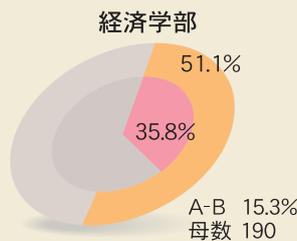
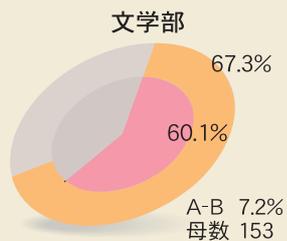
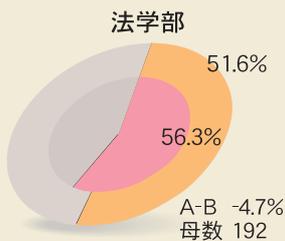
大学院 219名(回収率31.0%)

### 学部

#### I. 現時点で法政大学および入学学部に対してどの程度満足していますか。

満足度＝「満足している」と「やや満足している」の合計

法政大学への満足度(A)  
入学学部への満足度(B)



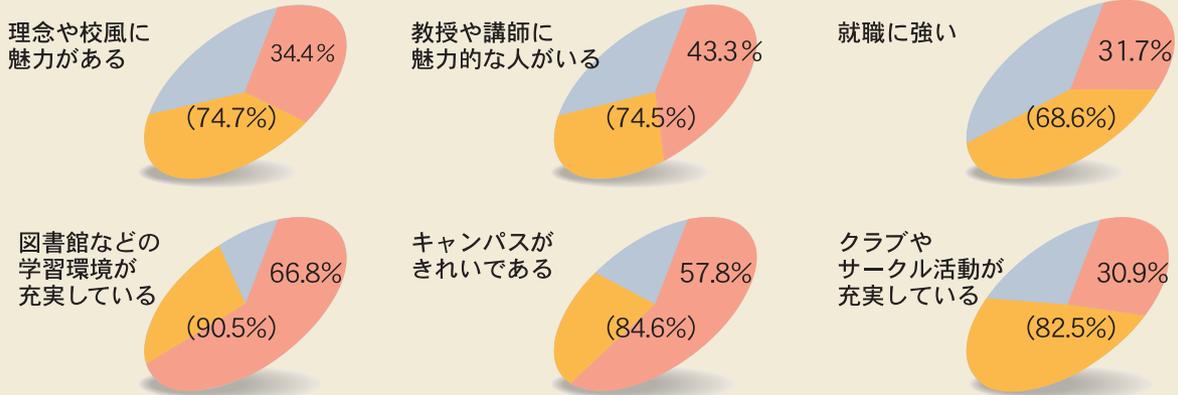


(2ページより続く)

## Ⅱ. 現時点で法政大学についてどのように感じていますか。

肯定的回答(「そう思う」と「ややそう思う」の合計)の割合  
( )は普通を含めた割合

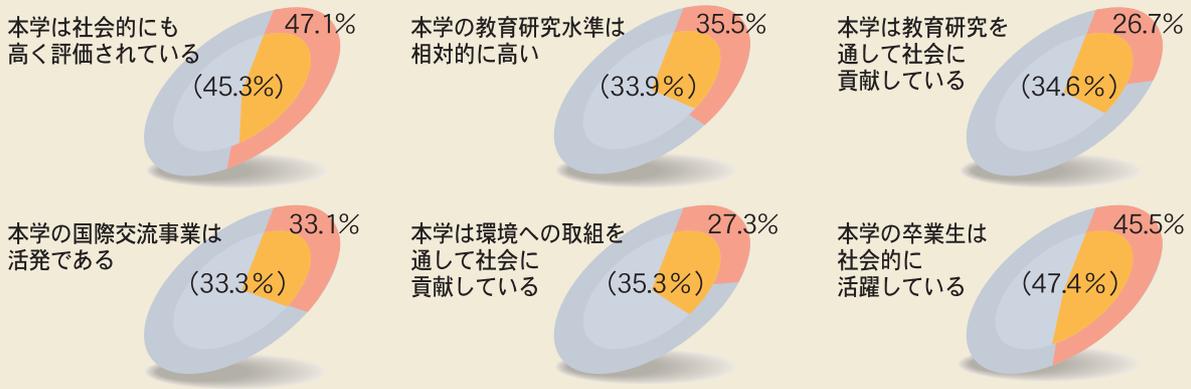
「そう思う」と「ややそう思う」  
普通



## Ⅲ. 法政大学は社会からどのように評価されていると思いますか。

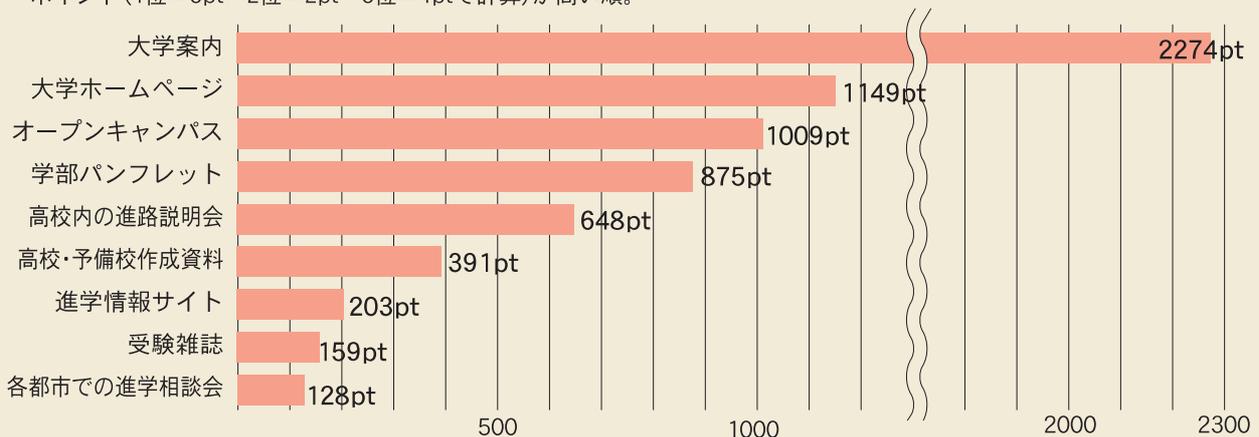
肯定的回答(「そう思う」と「ややそう思う」の回答)の割合。  
( )内は2008年度卒業生アンケート結果の数値。

「そう思う」と「ややそう思う」  
2008年度卒業生



## Ⅳ. 法政大学受験にあたって参考になったものを3つ選び1～3位の順位をつけてください。

ポイント(1位=3pt 2位=2pt 3位=1ptで計算)が高い順。

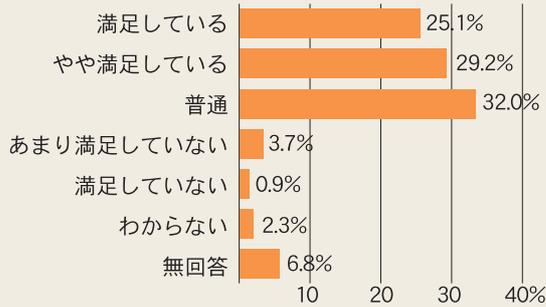




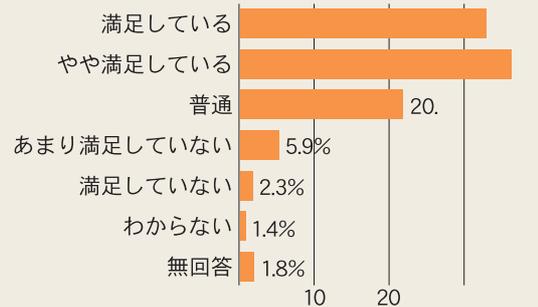
学院

現時点で法政大学および入学研究科(または専攻)に対してどの程度満足していますか。

法政大学に対する満足度



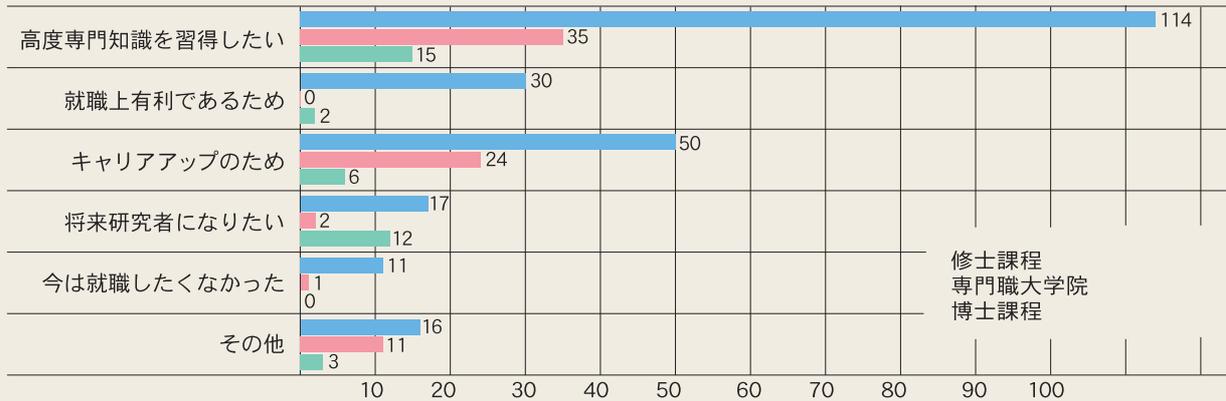
入学研究科(または専攻)に対する満足度



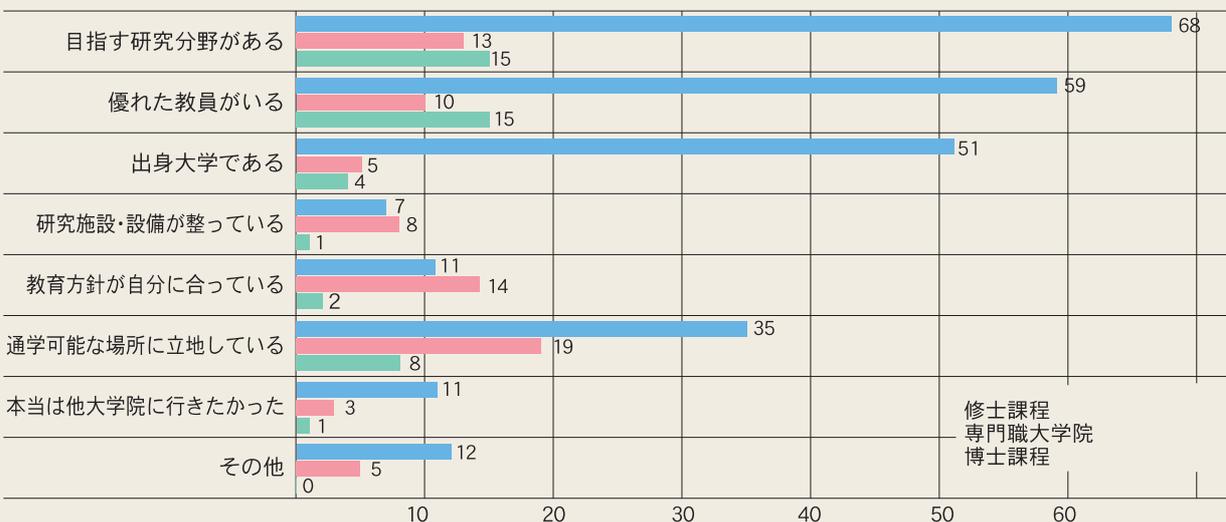
法政大学に対する満足度は、「満足」と「やや満足」の合計で54.3%、普通を含めると86.3%であった。

入学研究科(または専攻)に対する満足度は「満足」と「やや満足」の合計で69.5%、普通を含めると89.5%であった。

あなたが大学院に進学する目的を次の中から選んでください(2つまで複数回答可)



あなたが本学大学院を選んだ理由を次の中から選んでください(2つまで複数回答可)



## 評価を受けて

大学評価委員会による評価結果を受けて、5名の学部長の先生方に感想を述べていただきました。

### 評価活動の‘質’を保証するもの

社会学部長 水野節夫

9月の始めに自己点検・評価活動に関する評価案が送られてきました。事実誤認をチェックするために、です。この‘評価結果案’を一読しての率直な感想は、‘すごくよくできているな’というものでした。全学レベルでどうかという点については何とも言えませんが、少なくとも社会学部について言えば、〈評価委員会の学内の先生方は、関連資料を相当丁寧に読み込まれて学部の実態把握に迫ろうと努力されている〉と思えたからです。こういう形で評価委員の先生方が丁寧な目配りと緊張感を持って仕事をしてくださっている限りは、今回始まった〈評価委員会の仕組みは悪くないかもしれない〉という印象をもっています。

### 予想以上に良い評価を受けて

経営学部長 神谷健司

評価委員会から「教育課程」「学生の受け入れ」の項目でA評価をいただきました。所見欄を読んだ限り、学部として、長年真面目に取り組んできたことが適正に評価されたと認識しており、構成メンバーとして素直に喜びたいと思います。2003年度に3学科体制になった時の教学改革や最近のカリキュラム変更、およびインターンシップ制度、公認会計士講座、学生受け入れのための各種施策など学部としてやるべきことは真剣に取り組んできました。今後は受け入れた学生との関係で初年次の導入教育の充実、3学科ごとに(あるいは学生本人が考えている卒業後の進路に適合するような)体系的な履修を促進する施策の検討が早急に必要だと思われまます。

### ペースメーカーとしての大学評価報告

国際文化学部長 曾士才

学部創設から11年目に入り、今後の10年を見据えた制度改革や仕組み作りに学部として取り組んでいるところです。PDCAサイクルに象徴される自己点検システムや大学評価の基準は、学部のこうした取り組みを客観的な基準に基づき、外部の視線に耐えうるものにするうえで、とても役立っています。大学評価委員会から受けた評価、コメントを参考にして、執行部は中期目標達成に向けた今後3年間の行程表を作成しており、学部全体の共通

目標にしたいと思っています。

強いて苦言を呈するなら、評価を行う過程で当該学部へのヒアリングや不明な点について資料請求するなどの措置を取っていただきたかった。大学の制度や学部の実態を知らずに、思い込みや提出した文章の誤読に基づく記述もあり、評価体制の信頼度を疑わせるものとなっています。

### 評価文化の時代に

生命科学部長 長田敏行

自然科学に携わるものは、その成果を発表するとき必ず覆面の評価(いわゆるピア・レビュー)を受ける。審査員は世界のどこの誰かわからないので、しばしばやり取りは激烈を極める。かくして、評価は日常的であるが、それでも捏造が見破られなかったり、判断が誤っている場合もある。では、評価の効用とは何かと問うとき、私がかつて研究評価を国際レベルでの審査員より受け、しかも取りまとめに当たった経験を元に言うと、大変有効であり、その後の施設の改善、組織の運用に大変役立った。従って、私は評価に肯定的である。

今回受けた評価は、教育組織全般にわたるもので、研究評価とは異なるが、肯定的である意見は変える必要がないというのが、現在の感想である。

敢えて、願望をいうとSachlichkeit(私が、最初の留学先で習ったことで、簡にして要であろうか)を旨として、型式に流れないで欲しいということである。

### 被評価者の責任

グローバル教養学部長 渡辺宥泰

まずは、GISに対する明晰かつ丁寧な評価・提言に厚く御礼申し上げます。設置2年目の新学部ではありますが、正すべきは正し、誇れる点は更に伸ばすことが急務です。

その意味で耳の痛い言葉こそ励みになります。とは言え、設置申請時から最重点に力を注いできた事項についてお叱り(親身なアドバイス)を頂戴したことは、少々衝撃を受けました。ただし、これは評価者の誤解ではなく、こちら側の説明が不十分だったためと思われまます。図らずも「広報不足」という重大な改善点を悟った次第です。せっかく学部の健康を診断いただく訳ですから、被評価者も現況を正確に申告しないとイケません。



TOPIC  
2

活 動 報 告

大学評価支援システムの試験運用開始

大学評価室では、「大学情報の可視化プロジェクト」を立ち上げ、ITを活用した自己点検・評価を支援するシステム（「大学評価支援システム」）を構築しています。この10月にはシステムの第1段階が完成し、現在、学部長等を中心に試験的な運用を開始しました。本システムでは、授業回数、教員一人あたりの学生数等23項目についてグラフなどを使いわかりやすく可視化しています。また、各学部等が提出した目標が検索・閲覧できる機能も備えています。今後は全ての専任教職員を対象にサービスを広げる予定です。

付属校の学校評価研究会はじまる

10月6日ボアソナード・タワーにおいて、第1回「法政大学付属校における学校評価のあり方に関する研究会」のミーティングが行われました。この研究会は、付属

校における学校評価の導入にあたって、その仕組みおよび水準、課題、解決策等の研究を目的とするもので、各付属校から2名、大学から1名が参加しています。年度内に報告書をまとめる予定です。

研究会メンバー

- 大学 佐野哲(経営学部)    中高 牛田守彦、西田美弥
- 二中高 中村勉、佐藤真生
- 女子高 河合知成、吉池俊子    いずれも敬称略

保護者アンケートを実施

大学評価室では、卒業生アンケート、新入生アンケートに引き続き、11月上旬より保護者を対象としたアンケートを実施しました。学部の在学生の保護者2,000名を抽出し、本学に対する満足度や強化すべき点などについて調査しています。結果は次号で報告します。

法政大学

総長室付大学評価室

〒102-8160  
東京都千代田区富士見2-17-1  
tel.03-3264-9903  
fax.03-3264-4077  
E-mail:hyoka@hosei.ac.jp



<http://www.hosei.ac.jp/hyoka>



再生紙使用  
2009.12/2000